

令和7年度第6回茅ヶ崎市市民活動推進委員会 会議録

議題	(1) 令和8年度実施市民活動推進補助事業公開プレゼンテーション (2) 令和8年度に向けた茅ヶ崎市市民活動推進補助金交付事業の妥当性（答申案）について
日時	令和8年3月14日（土）13時00分から18時52分
場所	市役所本庁舎1階 市民ふれあいプラザ 市役所本庁舎4階 会議室1
出席者氏名	山口敦史 清水友美 高山和茂 四條邦夫 間山孝仁 船山福憲 若林英俊 坂田美保子 山田修嗣 事務局6名（市民自治推進課） 廣瀬課長、小松課長補佐、重田副主幹、熊澤主査、佐藤副主査
欠席者	澤田主事 川越龍之介
会議の公開・非公開	一部非公開 茅ヶ崎市自治基本条例第14条第3号及び茅ヶ崎市情報公開条例第20条第3号（参考：茅ヶ崎市情報公開条例第5条第3号）の規定により非公開。
傍聴者数	19人（内オンライン1人）

(1) 令和8年度実施市民活動推進補助事業公開プレゼンテーション

○事務局

皆様こんにちは。本日はお忙しい中お越しいただきまして誠にありがとうございます。

ただいまより令和8年度実施市民活動推進補助事業の公開プレゼンテーションを開始させていただきます。

本日の司会進行を務めさせていただきます市民自治推進課の小松と申します。よろしく願いいたします。

それでは、開会にあたりまして市民自治推進課の廣瀬より御挨拶申し上げます。

改めまして皆様こんにちは。市民自治推進課長の廣瀬と申します。

本日は公開プレゼンテーションに御参加いただきまして、大変ありがとうございます。本日こちらに来られる際に入口の方でマルシェのイベントが行われているかと思えます。あと市民活動サポートセンターの方でも年に一回のお祭りが開催されておりまして、非常に市役所周辺が市民活動団体さんの活動で活気づいている1日だなと感じております。特にマルシェの方は、げんき基金を以前に受けられた BENIRINGO という団体さんが主催をされておりまして、げんき基金等を受けたことをきっかけに活動が大きくなっていったのではないかと考えております。

市としても、様々なジャンルで市民活動団体さんが御活躍されているので、そういった活動をもっともっと応援したいと考えておりますし、より多くの人に知ってもらいたいと考えております。その一環として、今まで上の会議室でやっていた公開プレゼンテーションを、人通りが少しでも多い場所に移させていただいて、通る方にもプレゼンテーションをぜひ知っていただきたいなと考えております。ふらっと来られた方にも、ぜひ皆さんの活動をアピールしていただいて、応援していただける方を増やしていただければなと考えております。

今日一日、御発表を楽しみにしておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

ありがとうございました。それでは続きまして、市民活動推進委員会の委員長を務めます山田委員長より御挨拶をいただくとともに、各委員の御紹介をさせていただきます。よろしくお願い申し上げます。

○山田委員長

皆さんこんにちは。山田と申します。

この委員会の委員長を拝命しております。

突然ですけど、今日は何の日かおわかりでしょうか。皆さんは何と答えますか。

3月14日なので、愛情豊かな方はホワイトデーですね。貴重な日にお越しいただいてありがとうございます。それから、今日は3.14で円周率の日だそうです。円周率にちなんで、実はパイを食べる日、これもダジャレですね。今日はみんなでパイを食べようと、海外ではやる人がいるようです。そういう日に、市民活動のプレゼンテーションを開いて、いろいろな人が集まる、それからいろいろな人が関係を結ぶきっかけづくりになる、これはタイミングとしても面白いと思いました。そこで、よし！今日はこれを挨拶に言おうと思って、この話題だけずっと頭の中でグルグル回っていました。やはり円なので、グルグル回るんだなと思って会場にやってきました。

この市民活動のげんき基金というのは、市民活動推進基金補助事業という名称で、愛称として市民活動げんき基金という名前で運用されているものです。これは市民活動を推進するために、その環境を整備し、市民活動の活性化を図る、そして活力溢れる地域社会、茅ヶ崎がげんきになるという目的で設定をされたもので、平成17年から行われている事業です。これまでに200以上の事業に対して財政的な支援の実績があり、その延長線上に自治体との関係が深まるですとか、他の団体との関係が深まるといった市民活動の広がりが見られる事業です。この後、スタート支援に2つの団体、そしてステップアップ支援にも2つの団体、4つの事業のプレゼンテーション、御提案を聞かせていただきたいと考えております。

それぞれの団体の強みですとか、特色をフルに発揮したいろいろな事業、バラエティ溢れる提案が発表されることを期待しております。あらかじめ、私どもは皆さんの申請資料を拝見いたしました。そして、事前質問をさせていただいた次第です。これから皆さんの御報告を発表いただけるのを楽しみにしております。

我々、市民活動推進委員会は、このメンバーで皆さんのプレゼンテーションを聞かせていただきます。席が離れたりしていますが、これは仲が悪いわけではなくて、機材の関係上、こういう配置になっているようです。皆さんどうぞ、私たちにお話いただくのと同時に、今日は公開ですので、会場にも開かれていますし、Webでも繋がっている方がいるといますので、そういった方々に皆さんの御提案を、発表していただければと思っております。

もちろん、私たちも質問ですとか、意見等を述べさせていただく機会があると思います。対話をしながら進めて参りましょう。

(委員紹介)

以上、私たちこの9名で進めて参りたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

○事務局

ありがとうございました。本日、ZOOMのウェビナー機能を使いまして、Web上でもオンラインで中継しておりますので、御承知おきください。

それでは、本日のプレゼンテーションの流れについて、簡単に御説明をさせていただきます。本日これから15時ごろまでの時間で、令和8年度に実施する市民活動推進補助事業として提案のございました4事業につきまして、プレゼンテーションを実施していただきます。

時間配分ですけれども、補助区分のスタート支援の団体の方に関しましては、7分以内でプレゼンテーションをお願いします。ステップアップ支援の団体の方につきましては、10分以内で事業についての御説明をお願いいたします。時間管理につきまして、事務局の方で1分前に1度だけベルを鳴らします。時間が経過しましたら2度ベルを鳴らします。説明が終わりましたら、市民活動推進委員の方から御質問やアドバイスを10分程度行います。こちらは、スタート、ステップアップともに10分の予定でございます。2度ベルが鳴りましたら、速やかに説明を終了していただきまして、質疑応答中でベルが鳴りましたら、その質疑をもって最後とさせていただきますと思います。

皆様の事業の評価を、出していただきました企画書と本日の公開プレゼンテーションによって採択、不採択相当という判断を市民活動推進委員会の方でさせていただきます。令和8年度事業は最終的にその採択の結果を受けまして、茅ヶ崎市が決定をさせていただきます。

また、本日写真撮影を行う予定です。プレゼンの様子等の写真につきましては、ホームページ等で公表、またはげんき基金の広報で使わせていただきますので、御了承いただければと思っております。

最後になりますが、市民活動推進補助事業である本基金は「げんき基金」と呼ばれておりまして、すべて皆様からの寄附で成り立っている基金でございます。そちらに募金箱がございますので、寄附の趣旨を御理解いただきまして、御協力いただきたいと思います。

それでは、これより各事業のプレゼンテーションを始めさせていただきますと思います。

最初に、Akalaさんからスタートをいたします。

それでは、乳がんサポート湘南ちがさき Akala さん、事業名『ブレストアウェアネスで乳癌の早期発見を！』でございます。よろしくお願いいたします。

○乳がんサポート湘南ちがさき Akala

(乳がんサポート湘南ちがさき Akala 発表)

○事務局

はい。ありがとうございます。

それでは質疑応答に移ります。山田委員長よろしくお願ひします。

○山田委員長

はい。それでは今から質疑応答の時間に移ります。

まずは委員から質問がありましたらお尋ねください。いかがでしょうか。

はい、お願ひします。

○山口委員

発表ありがとうございました。

私も妻と娘がいますので、検診を受けているようなので安心しているのですが、いろいろ発表の内容というのは重要なことだなと思ひました。

その中で少し質問させていただきたいのですが、団体の設立経緯に茅ヶ崎、寒川の乳癌検診率が低くて、その結果、病院を受診されるときにはもうかなり進行している傾向にあるというお話がありましたけれど、何か実際にそういう医療現場で、お話できる範囲でいいと思うのですが、非常に残念な思ひをされてもう少し早くわかっていればもっとよかったのにといいふうな思ひに至ったことがありますでしょうか。

もう1点お伺ひしたいのですが、藤沢市の検診の補助金は確か全額補助だったように思うのですが、そういう補助金とか行政に対する、もう少し検診率アップするような何か働きかけを、行政の方でもやって欲しいというようなことを将来的に訴えていく、そういった考えを今後お持ちかどうかこの2点についてお伺ひできたらと思ひます。

よろしくお願ひします。

○乳がんサポート湘南ちがさき Akala

ありがとうございます。私は市内で乳腺外科医として勤務しておりまして、茅ヶ崎市には3年前に赴任して参ったのですが、他の自治体に比べると、やはりすごく進行して来られる方がたくさんいらっしゃって、通常、乳癌って早期発見・早期治療をすれば怖い病気ではないというふうに言われるにもかかわらず、もう初診の段階で治せない病気にしてから、病院に来られる方というのが、コロナが明けてから2割ぐらいいらっしゃるという現状で、全国的には数パーセントと言われている中で茅ヶ崎は2割近く、もう治せない病気にしてから来られるという方がいらっしゃる現状があるので、それはもう本当にとても残念でありますし、私たちの皆様への働きかけが足りないというふう実感しているところでもあります。

2点目の行政へのアプローチなのですが、行政の方へはもちろんこの現状というのを医療現場で感じる現状というのをお伝えはさせていただいているのですが、やはり行政の方も、検診としては予算の問題ですとかそういったところもあって、なかなか実際の動きには、すぐに繋がる場所ではないのだと思ひます。現状はお伝えし続けていきたいと思ひます。

○山田委員長

はい、続いていかがでしょうか。委員からの質問がありましたらどうぞ。

はい、どうぞお願ひします。

○高山委員

高山といいいます。

非常に有効なといいいますか、こういうことをやっていただけるとありがたいなと思ひるところなのですが、まずペーパーだとかそういう情報というのは、全く無関心な人が入口のところに入ってくる。そしてイベントとか、そういう場所で直接お話をさせていただくと、まさに関心があるのだけれど、なかなかそこに踏み入れてないような人たちを捕まえるといったら言い方が悪いのですが、まさにそういう人たちに深く情報を伝えて、関心をしっかり持ってもらいたいというのでは、非常にいいなと思ひます。そこで、外で人と実際接する場所になると、個人情報に関わることなので、きちんとそのガードといいいますか御本人の秘密をきちんと守れるよ

うな体制をとっておかないと、おそらくせつかく興味を持ってその場に1歩踏み込んで来ていただいた人をしっかり捕まえて、その人にしっかりした認識を持っていただくというところ、階段をどんどん上っていただけるような仕組みを、是非とも取っていただいて、安心してそういう現場で人に情報をきちんと伝えと、なかなか紙の上ではこんなことやっているんだで終わってしまうのが多いので、是非ともそういうところにも力を入れていただけるといいなと思います、その辺のところはどうでしょうか。

○乳がんサポート湘南ちがさき Akala

実際、市民の皆様にお話させていただけるシチュエーションは、私どもも、これから経験を積んでいくところでもございまして、どのような形で、イベントで、ここのプライバシーを守りながら、お話させていただけるかというのも、これから課題とさせていただきたいと思うのですが、人によってはオープンに、一般的な形で相談したいという方もいらっしゃるの、できる範囲で情報提供していきたいというふうに思っています。

ありがとうございます。

○山田委員長

はい、続いていかがでしょうか。
お願いします。

○若林委員

若林です。ありがとうございます。

お話を聞いていて、やはり働き盛りの世代の方々が、こういった病気にかかってお仕事ができなくなるというのは、おっしゃる通り社会的な損失に繋がってしまう。それを軽減していこうということについては、非常に私も共感をいたしました。大事なのは、PRといいますか、情報発信をどうしていくのかということになるのだと思いますけれど、この事業自体の継続性みたいなところは、今どんなふうにお考えになっているのでしょうか。

○乳がんサポート湘南ちがさき Akala

継続に関しては、明確な見立てがあるわけではないのですが、展望のところでも少し書かせていただいたのですが、乳癌の患者さんは、すごくたくさんいらっしゃって自分の経験を他の方に伝えていくことで自分が癌になったことに意義を見いだせたりする形で、自分がケアされるような側面というのがあるというふうに言われています。ですので、私たちの活動を続けることで、患者さん自身が今度啓発をする側に回っていただくような形で、そのうち何らかの形を立ち上げれば自己増殖していくのではないかと、私としては期待しているところはあります。ただ、そう持っていけるようになるまで、私たちが踏ん張る必要があるというふうに思っています。

○山田委員長

はい、ありがとうございます。

まだ時間があるようですので、どうでしょうか。質問、コメントなどがありましたら、お尋ねください。いかがでしょうか。はい、どうぞ。

○間山委員

私はとてもいい活動だなと思うのですが、予算の中ではチラシが4000部、入っています。いろいろな場所で啓発をされると思うのですが、一回でどのぐらい配ったり、何回ぐらい、そういった活動で使ったりするのかなと思いました。

○乳がんサポート湘南ちがさき Akala

イベント等ですと、ものにもよりますが100部ぐらいしか消化できないようなところもあります。昨年、小学校の就学前健診で配っていただいたときに、1000部近くお渡しさせていただきました。

いているところもありますので、そのような形で継続していきたいというふうに思っています。

○山田委員長

はい、ありがとうございます。お願いします。

○坂田副委員長

御発表ありがとうございました。

私の方から、あと1点御質問させていただきたいと思います。実は、私も友人を乳癌で2人亡くしております。ただ、先ほどお話があったように、友人知人にその話を聞いたことによって、検診に進むという方も多いと聞きます。プラス、乳癌だけではなく、子宮癌への受診にも至っているということもあるので、やはりサバイバーではないですけども、実際に経験をした方々が口伝で発信していくというのは、すごく情報としては強いものになっていくなと感じております。今後の方針ですけども、チラシを配っての啓発はすごく大事だと思うんですけども、やはりいかに受診率を高めるかということだと、当事者の皆さんの声を集約しながら表に出すというようなところが、非常に重要なと思うのですが、そちらについて何か具体的な検討があれば教えていただきたいと思います。

○乳がんサポート湘南ちがさき Akala

個人的な経験をインターネット上とかに載せてしまうと、それが医学的な情報なのか個人的な情報なのかというのが、なかなか区別がつきにくくなってしまっていると思っていて、個人的な体験談ですとかそういったところはイベント等で、個々でお話いただく、という形でお伝えしていければと思っているのと、あと私どもが医師会の後援等を得て、作らせていただいている情報に関しては、ホームページ等で発信していったって、SNS等を通じてホームページの方に誘導するような形でやっていきたいというふうに思っています。

○山田委員長

はい。それでは今ちょうど時間となりましたので、質疑応答は以上とさせていただきます。どうもありがとうございました。

○事務局

Akalaさん、お疲れ様でした。

それでは、スタート支援の部 F-STYLE 松林ボッチャクラブさん、事業名『ボッチャ普及プロジェクト』です。よろしくをお願いします。

○F-STYLE 松林ボッチャクラブ

(F-STYLE 松林ボッチャクラブ発表)

○事務局

はい、ありがとうございます。それでは、質疑応答に入らせていただきます。山田委員長、よろしくをお願いします。

○山田委員長

ありがとうございました。

では、委員からの質問がありましたらお尋ねください。いかがでしょうか。

はい、お願いします。どうぞ。

○若林委員

御説明ありがとうございました。1つ伺いたいなと思います。

地域共生社会の実現というようなことを目指していく上で、いろいろな方々が外出の機会を

創出できるというのは、非常に意味があることかなと思います。その1つのきっかけとして、こういったスポーツのイベントを体験するというのは、いいなと聞いていて思いました。そういう中で、御提案の中であったと思うのですけれども、体験会で、障害のあるお子さんたちにスポーツを通じて成功体験をとというのがあるのですけれども、障害種別って、いろいろあると思うのですが、その辺の配慮は、どういうふうにされるのか伺いたいです。

○OF-STYLE 松林ボッチャクラブ

はい、御質問ありがとうございます。

実際私も福祉の仕事をしている関係もございまして、特に扱いが簡単だとは言いませんけども、目に見える形で多分皆さんわかりやすいのは、肢体、車椅子の方だと思います。目に見えにくいものとして一番全国的に多いのが、精神障害の方なんです。見た目はげんきでも、やはり心にいろいろ問題があって、そういう障害を持たれていることもあって、そこは結構シビアな問題ですので、何ていうのでしょうか。寄り添い過ぎても、御本人にとってはあまり隠したい内容でもあるのですけども、そこを自然と接することによって、何ていうか定期的に通えるような環境づくりは、考えて対応しているかなと思います。肢体の方はサポートすれば、もちろん車椅子ありますので、競技としてはできる。そういう認識でございます。

○若林委員

ありがとうございました。

もう1つ、どこかで御説明いただいたのかもしれないのですけれども、経費の中で御提案されていたそのボールの金額が、提案額と違っていたような気がするのですが、物品費の中で御提案いただいていたボールの金額が9万7320円としていただいていたようなのですが、それが今のプレゼンでは6万7320円、3万円少しコストダウンしているということで、よろしいですか。

○OF-STYLE 松林ボッチャクラブ

収支予算書が、もし皆さんお手元があれば御確認をいただきたいと思うのですが、ボールセットが6万7320円でございますけども、養生テープとビニールテープですね、その経費がそこに入って総額9万7320円です。養生テープをそんなに使うのかということなのですが、実際何もないところではボッチャできませんので、一から枠を作って、コートを設定して、それで体験会を回すというのがありますので、かなりの養生テープを使うということで計上させていただいているということです。内訳として6万7320円はボール代です。

○若林委員

はい、わかりました。ありがとうございます。

○山田委員長

続いていかがでしょうか。はい、お願いします。

○山口委員

どうも発表ありがとうございます。

私からは、インクルーシブスポーツフェスティバル茅ヶ崎というスポーツ推進課の主催にボッチャの体験ができるようですが、そういう他のスポーツ団体との協働も、今後考えていますでしょうかというお話を質問しようと思っていたのですが、もうすでに話をしてしまったので、質問の内容を少し変えさせていただいて。

昨日の茅ヶ崎タウンニュースに、3月29日に全国大会が主催されるという記事が載ってまして、さらに大きなのをやるんだなというふうに気が付きまして、先ほど今日は午前中で100名ぐらいというお話がありましたけれども、全国大会ではどれくらいの方々が参加されるか、今の段階で大体その規模がわかっているのでしょうか。

○F-STYLE 松林ボッチャクラブ

御質問ありがとうございます。昨日タウンニュースに出ているのが、この団体ではなく、F-STYLE スポーツクラブという平塚市にある団体でございまして、その傘下に入っているのがF-STYLE 松林ボッチャクラブというところですね。平塚のF-STYLE スポーツクラブというところが実施を、親元の企業ですけれどもそこが実施をすることになっているのが、昨日のタウンニュースで全国大会の記事です。全国から64チーム、今エントリーいただいております、市民の方も10チームぐらいです。私ども松林ボッチャクラブも参加をするのですけれども、それ以外に地域の御家族とか、高齢者の施設の方とか出ていただけるのも含めて今64チームで、スタッフ含めて今300人ぐらいです。3月29日の大会には、市内外から、大阪、愛知、群馬、茨城等、遠方からも参加するという話は聞いています。

○山口委員

その大会ではF-STYLE 松林ボッチャクラブさんは、運営側として行うということではなくて、1チームとして参加されるということによろしいでしょうか。

○F-STYLE 松林ボッチャクラブ

チームとしても、もちろん出るんですけど、小さい体験会などを考えており、会場で少しスペースをいただけないかというのを、F-STYLE スポーツクラブの方に、親元のほうに今お話をしている、人数がそろえば、F-STYLE 松林ボッチャクラブのメンバーが実際に体験会もすると。大会にも出ますし、体験会のイベントを回すと、二足のわらじで協力できたらなというところですよ。

○山口委員

わかりました。ありがとうございます。

○山田委員長

続いていかがでしょうか。はい、お願いします。

○坂田副委員長

発表ありがとうございます。

事業の目的、効果の部分なのですが、ボッチャを通して仲間とのコミュニケーションや協調性、相手を思いやる心を育み社会生活において大切な力を身につけることを目的とするというふうに、書かれてありました。具体的にボッチャというスポーツを通して、具体的にどんな力がその場で身につくのか、もしかしたらボッチャのスポーツそのものの魅力をわからない人達もいるかと思しますので、少しボッチャのスポーツについて御説明をいただきながら、こんなところでこんな力が育まれるんですよという御説明をいただいてもよろしいでしょうか。

○F-STYLE 松林ボッチャクラブ

いつもありがとうございます。

なかなか難しいのですが、見ているだけだと簡単だなと多分感じると。ボッチャをやられた方いらっしゃいますか。皆さん、やったことないですか。

意外と簡単です、見ていると。でも実際やるとなると、なかなかボールがつかないんです。実際のコートは縦10m横6mくらいあるんですけど、正規のコートで。実際、パラリンピックに出ている方たちはその大きさと戦っているんですけども。なかなか今日はじめましての方は、やったことがないと難しいので、もっと小さいこのワンフロアぐらいのスペースで、なるべく再現性を高くできるように、そこに一番喜びがあるのではないかなと思っておりますので、まずは成功体験をたくさんつくることと、あとチーム戦になりますと他の方もいらっしゃるの、自分のわがままだけではなかなか通らない部分もありますので、そこは仲間と相談をすることがまず目的、チームとしてですね。そこがコミュニケーションの第一歩だと。自分勝手にやって

いたらチームワークがよくなって、皆さんから嫌われたりするというところもありますから、まずチームとして、自分の気持ちを押しさえつつ、でも出しながらというのが、そこは皆さん温度差というか空気感でやはり感じているかなと、私なんか一緒に現場にいると一番感じているところで、そこにちょっと不安があったら支援とかサポート、お声掛けをして、こういうふうにしたらいいのではないかなというアドバイスをするのが僕たちの役割かなと思っています。成功体験を積んでくると、だんだん悔しさが出てきて、相手に負けたくないという気持ちが、多分、向上心に繋がるのかなというふうに思っています。実際誰でもできてしまうスポーツなので、導入としてはすごく簡単だと思いますけれども、奥が深い戦術も出てきます。相手の嫌なところになってくるとだんだん意地悪な気持ちが芽生えてくるというのはよく聞く話でございます。本当に誰でもできてしまうというのは、でもボール1個の重さが、大体皆さんわかるかな。オロナミンC 1本が、ボール1個と同じ重さなんです。278gから280gまでの間で、調べましたらオロナミンCと同じ重さだと。今度、コンビニとか行ったときに、お手元にとっていただければ、これがボッチャのボールの1球分の重さと同じだと。それを、皆さん障害も関係なく10mまで実際に投げているのがボッチャという競技、特に障害者スポーツというところになります。ありがとうございます。

○坂田副委員長

御丁寧ありがとうございます。

高齢者スポーツですと古くはゲートボールとかありますけども、やはり中で揉めたりしてますよね。共生推進というところで、共生社会に向けてということだと、健常者もそれから高齢者も障害者も関係なく、一緒にスポーツができるというところで、今後の活躍に期待したいと思えます。ありがとうございます。

○山田委員長

では、今ちょうどベルが鳴りましたので、質疑応答は以上とさせていただきます。どうもありがとうございました。

○事務局

はい、ありがとうございました。

それでは、評価の都合上ここで一旦休憩を取らせていただきたいと思います。

では、後ろの時計で2時10分から再開をさせていただきますと思います。よろしく申し上げます。

- 10分休憩 -

○事務局

それでは再開をさせていただきますと思います。お待たせいたしました。

スタート支援の部が終わりましたので、次がステップアップ支援の部ということで、ちがさきこども選挙実行委員会さん、準備の方よろしくお願ひいたします。

では改めまして、団体名ちがさきこども選挙実行委員会、事業名『ちがさきこども選挙』でございます。どうぞよろしくお願ひします。

○ちがさきこども選挙実行委員会

(ちがさきこども選挙実行委員会発表)

○事務局

ありがとうございました。

それでは質疑応答に移ります。山田委員長お願ひします。

○山田委員長

ありがとうございました。

それでは委員からの質問がありましたらお尋ねください。いかがでしょうか。

はい、お願いします。

○坂田副委員長

プレゼンテーションありがとうございました。

この活動は私も前回のときからずっと注目をしておりました。素晴らしい茅ヶ崎の民度ですね、民度の高さに共感をしているところでございます。今日伺って、やはりその民度の高さが素晴らしいがゆえに、なぜ今回このげんき基金に応募しようと思ったのか、そこを伺いたいと思います。よろしく願いいたします。

○ちがさきこども選挙実行委員会

素晴らしい質問ありがとうございます。

もちろんげんき基金に応募した理由は、お金という面もあります。実際やるのに、僕らは全部持ち出しでやっていますので、そういった面もあるんですけど、それを上回ってげんき基金に応募した理由が実はありまして、前回やったときに、行政と連携することができなかったんですね。そこは課題だったので、茅ヶ崎市がやっているげんき基金の採択事業になることによって、ある意味、茅ヶ崎市とともにやっていく事業として、打ち出せるのではないかとところが、実は大きな理由でございまして。なので、このげんき基金というのを皮切りに、本当は教育委員会とかいろいろなところと連携してやっていきたいという思いはあるんですけど、そのきっかけとして、この基金を足がかりにやっていけたらなというふうなところでございませぬ。

○坂田副委員長

ありがとうございます。まさに、この事業が市との協働に繋がれば、素晴らしい茅ヶ崎市のさらにシチズンシップが芽生えていくのではないかなというふうに思いました。ありがとうございます。

○山田委員長

続いて御質問ありましたらどうぞお尋ねください。はい、どうぞ。

○清水委員

今のプレゼンや資料を拝見して、前回すごくうまくいって、すごく意味があった事業だなと思うんですけども、今、もしかしてプレゼンで時間が足りなくなったのかもしれませんが、前回の事業開催を踏まえて、今回の事業に新たな観点や取り組み、工夫などがありましたら教えていただけますか。

○ちがさきこども選挙実行委員会

ありがとうございます。時間配分を間違えて残り1分で今年のプランを説明してしまって、ほとんど出来なかったので申し訳ないです。ありがとうございます。

改めて言いますと、強化しないといけないところが結果よりもプロセスというところですね。結果よりもプロセスというのは何かというと、結局、投票するだけがゴールではないなと思っております。そこに向かうまで、いかにまちのことを考えたりとか、学んだりとか、というプロセス自体にこども選挙の意味があるなという前回僕らがやって思ったし、全国20地域でやってみても、その学びがあったので、この真ん中のところですね。こどもマニフェストというプログラムを新設しました。これは何かというと、こどもたちとともに市民活動家と学ぶ期間を設けています。ただ座学で学ぶだけではなくて、フィールドに出て、やっていこうと思えます。例えば今日ルーパマルシェをやっている BENIRINGO がいますけれど、BENIRINGO は河口クリーンをやっているの、こどもたちが河口クリーンをやりながら、じゃあその環境という切り口を通してまちにどういうことを提案したらいいとか、防災という切り口、食と農とい

う切り口を通して、まち全体のことを考えて、こどもたちがどういう茅ヶ崎にしたいかというようなマニフェストを作るプログラムというのを入れております。これをもってして、この最後のこども投票の候補者にこのマニフェストをぶつけて、その感想も含めて、すべてのこどもたちに候補者の情報として提供したいなというところが、前回よりパワーアップしているメインの部分でございます。

○清水委員

プレゼンで話しきれなかった部分を、言っていただけてよかったです。ありがとうございます。

○山田委員長

続いていかがでしょうか。お願いします。

○船山委員

今日発表ありがとうございました。このチラシやポスターなどを、こども選挙を行うに当たって設置されたと思うのですが、どういったところに設置をされていらっしゃるかということが1点と、もう1点がこの取り組みをするにあたってのボランティアスタッフですとか、こどもさんが関わられるので、たくさんの方が必要なのではないかなと思うのですけれども、そういったところの確保というのはいかがでしょうか。

○ちがさきこども選挙実行委員会

はい、ありがとうございます。

まずチラシとかポスターをどういうところに貼ったかということですが、これは前回で言うと、チラシ、ポスター5000部刷って、こども選挙委員の保護者とともにいろいろなお店、カフェとかショッピングセンターとか回りながら、地道に置いていったというのが実態でございます。本当は、学校に置きたかったのですが、やはりその行政と連携というところを踏まえて、やっていかなきゃいけない部分で、そこにはまだ壁があったので、今回はもう1回トライしたいなというふうには思っております。

ボランティアで言うと、前は合計60人ぐらいのボランティアでやったのですが、前回やってくれたボランティアの方たちにはもちろん声をかけますし、一番の味方になってくれるのが、こども選挙委員の保護者の方がすごく協力的になってくれるというのが前回の経験でわかっているので、その保護者の方たちを中心に、ボランティアという形で、一緒に市民のみんなどと一緒に開催したいなというふうな思いでおります。

○船山委員

ありがとうございました。

○山田委員長

続いて、いかがでしょうか。ではお願いします。

○山口委員

先ほどお話いただいた内容に、入っているものなのかもしれませんが、この公開プレゼンテーションの事前に出す資料の中に、全国いろいろなところで、前回の茅ヶ崎をモデルケースにしてやられているというお話だったんですけども、全国ムーブメントという中で、今回のプログラム、他の自治体に類を見ない充実した内容というふうな記載があったんですけども、そこは一体どういうところなのかというのを、具体的に教えていただけるとありがたいです。

○ちがさきこども選挙実行委員会

はい、ありがとうございます。

全国 20 地域で開催されたんですけど、実は、やり方は地域ごとに任せているのでいろいろなやり方をされているんですね。ただ、本当の選挙と同時開催という 1 つだけは守っていただいて、リアルな選挙でやるということで広がっています。類を見ないと書かせていただいたのはまさに先ほど言ったこども Manifesto の部分でございまして、それは今までやった地域がないんですね。多くの場合は、やはり候補者に質問をぶつけて、その答えをもとに選ぶというような形でした。僕らはもう 1 個それを進めて、こどもたち自身が考える提案自体を、候補者にぶつけてみようというところ、そういったところが、まだ全国ではない部分というところで、1 つこのこども Manifesto というところでパワーアップさせていって、これがもし成功すれば、全国に展開していきたいなというふうに考えている次第でございまして。

○山口委員

ありがとうございます。

○山田委員長

あと 1 つぐらいは質問ができそうですけれども、いかがでしょうか。よろしいですか。

そうしましたら、せっかくなので私から 1 つ伺いたいです。

大変興味がある活動なので、教えていただきたいです。事前質問の御回答では、こどもたちを評価する立場にはないのと、控え目に回答してくださいました。ですが、やはり、期待されているところはあると思いますし、茅ヶ崎がこういう地域になっていくといいなという思いもあると思います。今回のこの取り組みを通して、期待する茅ヶ崎の変化ですね、この辺りをもう少しだけ教えていただけますでしょうか。

どの辺りに期待をしていらっしゃるでしょうか、まちの変化についてです。

○ちがさきこども選挙実行委員会

こども自身のことを評価する立場ではないと書かせていただいたんですけど、こどもは有権者ではないんですけども、立派な主権者という考え方は私たちの根底にあります。一緒にまちを作っていくという意味では、私たちが彼ら彼女たちを評価するのではなく、ともに作る仲間というふうに考えています。今回、こども選挙 2026 ということで、プログラムを強化して行く観点も、やはり、こどもが自ら主体的に学び取り、そして自分はこういうまちを作りたいんだというようなことを考える。そこから一人一人が主体的に、自分がまちを作っていくんだ、私は主権者なんだという意識を持っていただくことそれをすごく大切にするためにこのような形にしました。ゆくゆく彼らが大きくなったときに、私はこんなまちにしたいんだというような気持ちで、市民が主体的に、一人一人がまちの未来を思い描いて、みんなで、市民主導でまちを作っていく、そんな茅ヶ崎になっていくといいなという思いが根底にはありまして、このような回答をさせていただきました。ありがとうございます。

こども選挙なのでこどもがメインではあるんですけど、さっき申し上げたように関わった人、大人も実際に変化していく。それはどういう変化かという、自分のまちだから自分でやはりよくしたい、したくなるという、これはこどもも大人もそう思えたという、それがこども選挙をきっかけにした最大の成果だと思っているので、僕自身も未来の茅ヶ崎が、24 万人全員が、まちづくりに関わるような、それが本当の自治なのではないかなと考えてまして、自治体だけ行政だけが自治をやっているわけではなくて、市民みんなで自治をやっていくというような、そういう社会が茅ヶ崎から始まったなら、すばらしいなという思いは持っております。

○山田委員長

大変よくわかりました。ありがとうございます。

では、時間ですので以上とさせていただきます。ありがとうございました。

○事務局

ちがさきこども選挙実行委員会さんありがとうございました。

続きまして ART / TANEMAKi さん、御準備の方よろしく申し上げます。

では、ARTノTANEMAKiさんで、事業名『自転車×アートプロジェクト』です。よろしくお願いいたします。

○ARTノTANEMAKi

(ARTノTANEMAKi発表)

○事務局

ありがとうございました。それでは質疑応答に進みたいと思います。
山田委員長お願いします。

○山田委員長

では、委員からの質問がありましたらお尋ねください。
いかがでしょうか。はい、どうぞお願いします。

○四條委員

御説明どうもありがとうございます。

アートと自転車との組み合わせは、すごく独創的だな、面白いなと思っております。ホームページやインスタグラムを拝見させていただきました。やはり、アートをネット系の広報としてどうアピールするかというのは、なかなか難しいような気がしております。将来クリエイティブセンターを目指されるということだと思うので、今後どうやってネット系に広報していくのかという方針が、もしありましたら教えてください。

○ARTノTANEMAKi

ありがとうございます。

今回ステップアップですけれども、令和5年度にげんき基金を使って実施した事業は『Family art day (ファミリー・アート・デイ)』だったんですね。多くの市民の方にも御興味いただいたんですけれども、一番大きな成果だったのはやはり教育者の参加数が多かったところなんです。冒頭にもお話ししましたが、茅ヶ崎遊び場ミュージアムにおきましても、やはり教員からの注目度が非常に高い。いろいろなところでお話を伺いますと、教員の負担をこれ以上増やすべきではないので、学びの機会を外部のものが申し上げてなかなかその教育機会の提供を受け入れていただけない。ただ、でも現場にいる教員の方々はそういう機会を欲しているんだということを実感しています。なので、まず最初に、本当は市民ありきではあるんですけれども、体感していただかなくてはいけない、その価値を知っていただかなくてはいけないということでは、現場に向向くということは非常に重要だと思っています。実際に保育園、幼稚園だったりとか、学校だったりとか自治体で持っているコミセンとかに向向いて体験をしていただく。そこから、これはいいものだということを実感した上で、熱心なファンになっていただくということは非常に重要なことだと思っています。なので、5年度のときにやはり振り返りとして、“今後も有料開催ができるのか、或いは引き続き無料でやっていくのか問題”というのが私たちの中でもありましたけれども、やはり一般市民の方は、このアート体験に対して親子で数千円払いますとはなかなかならないんですね。やはりマックスで1500円。その中で、では自主事業にしていきますかというところと難しいところがあるので、まずは私たちの方から向向いて行って、その教育価値というものを認識していただくところから始めていきたいなと思っています。そこから、じわじわと市民の方々に浸透していきなと思っています。

○四條委員

そうするとネット経由の広報というよりは、リアルな体験重視で、そこから地道に進めていく考えということですね。

○ARTノTANEMAKi

はい。おっしゃる通りでございます。

○四條委員

わかりました。ありがとうございます。

○山田委員長

では続いて、いかがでしょうか。

そうしましたら私から、前提に関わる話なので、もう少し詳しく教えてください。アートと自転車の掛け算の結果をどのようにお考えになっていますか。そして、その答えは、どんなふう

に地域の明るい展望になっていくのでしょうか。つまり、アートスペースや拠点づくりについては、地域のどのような魅力とか、どのような意味として広がっていくのでしょうか。その辺の想定というかイメージを、もう少し御説明いただけないでしょうか。

○ART / TANEMAKI

ありがとうございます。

まずは最初にいただいた御質問ですけれども、アートと自転車の掛け算、掛け算しちゃうと無限だなと思うのはやはりお子様の発想が豊かだからだと思います。おそらくこれ、アートと自転車の掛け算にとどまることはないだろうと思うんですね。私たちも今準備している段階で、不法投棄の問題だったりとか、道狭いよね問題だったりとか、こどもは誰と自転車で走らなかつたかといった大人が問題だよという話だったりとか、すごく多岐にわたってしまうので無限に広がっていくと思っています。ただ、交通安全啓蒙を中心にやりますというふうになってしまうと、おそらくあまり魅力的ではないと思うんです。もし私が、すごくおしゃれな人がおしゃれな人を呼んで、安全啓蒙だよとなっても行かないだろうとっていて、やはりそこに何か新しさとかユニークさとか、こどもにちょっと出会わせたい体験とかがあると、ちょっと行ってみようかなという気になる。こどもたちが満足そうに過ごしているとか、新しいものに触れているとか、こどもたちが認めてもらえる空間の中で自由なところは自由でいいんだと、ただそうではないところはみんながこのルールでやっぺいこうと決められたものを守っていく必要があるよねというのを大人がまず学んで知って、そこからこどもたちに「こっち側走るらしいよ」とか、「こういう標識があるところでは1回止まろうね」と少しずつ伝えていくという、その意識改革が非常に重要になっていきますし、その意識を変革するために、まず足を運んでみるということから始められればいいのかと思います。例えばこのアートワークショップの機会ですけれども、事前にこどもたちにワークショップを提供します。面白いことをやったんだよ、今日いつもと違ってたって言って、それが展示されますというふうになったら、多くの方々がその状態を見に来られるわけですね。そういったところからでも、また交通安全啓蒙のチラシだったりとか、活動に興味を持って警察署の話だったりとかを聞いていただけるのではないかなと思っていますという意味では、やはりまず参加してみようという動機づけにかなり有効なのではないかなという気もしています。私は、仲間はもちろんいますけれども任意団体でありますので、運営活動がまだちょっと軟弱なところがありまして、私1人でいろいろな人にクリエイティビティ持っていると面白いんだよって、仲間で育つんだよとか、協働してまちづくりをしてみようと思ったときに仲間がいるというのはまず第一歩の勇気が出るだろうみたいな、そういう体験をしてもらいたいと思って活動しても、届けられる範囲は非常に狭いかなと思っています。ただ、表現したいと思っているこどもはたくさんいる。市内にもたくさんいる。なので、そういうこどもたちに対して、今日はここでそういう体験ができます。あなたの自己表現を保障してます。ということをやまず感じてもらうという、こんな人がいるんだというのをわかっていただくということは非常に大事な一歩になるのではないかなとも思っていますし、交通安全啓蒙1つとっても、こんなふう面白い展開が何か生み出せるんだなというふうにわかっていただくことで、仲間になっていただける企業さんもちよっと注目していただけるんじゃないかなということも感じております。もしクリエイティブセンターがこの茅ヶ崎の自転車のイベントによって、クリエイティブセンターがあったらこういうイベントが自転車だけじゃなくても他のところでも開かれていくのかなって実感していただけたら、センタ

一の重要性だったり、それがあることに対する価値を感じていただける市民の方が増えたら、こどもたちの居場所がない、フリースクールがあるのにフリースクールに通ってくれないとか、あとはフリースクールが今抱えている問題で、こどもたちに面白い教育機会を提供したいんだけど、どこに連れて行ったらいいかわからないみたいな問題も、ある程度解消することはできるのではないかなということも考えております。

○山田委員長

ありがとうございます。よくわかりました。

他には御質問いかがですか。お願いします。

○坂田副委員長

はい。発表ありがとうございました。

自転車とアートをどういうふうに結びつけて実施するのかなというところを伺いたかったのですが、先ほどプレゼンでお話いただいたのでその部分は解消されました。

ちょっと意地悪な質問で大変恐縮なんですけれども、仮にですね、今日のげんき基金の審査の中で、例えば審査が通らなかった、或いは減額になってしまったという場合に、この事業をどういうふうに進めていかれるか、少しお考えを伺いたいと思います。

○ART / TANEMAKi

ありがとうございます。それは考えています、ちゃんと。そんなに簡単ではないだろうと思っているので。

皆様にはまず申請しましたと言った段階から、多くの方々に興味を持っていただいて、正直協力者が非常に増えたなど実感しております。すごくありがたいことだと思っています。中には大学1年生、それこそ文教大学の1年生だったり、東洋大学の1年生の方々も、何か役に立てるかもしれないと言ってお声がけいただいて、私はコミュニケーションにちょっと自信がないんですけれども、こどもたちを通して学ばせてくださいとおっしゃっていただいたりして、すごくありがたいと思っていますし、私1人が頑張っていて、こどもたちと一緒に何かやって、何か作って、とやるのではなくて、やはり人を育てなくてはいけないということも考えておりますので、万が一これがゼロであったとしても事業は実施いたします。

○坂田副委員長

力強い思いを聞かせていただきました。ありがとうございます。

ぜひ頑張ってくださいと思います。ありがとうございます。

○山田委員長

では、時間になってしまったみたいですので、質疑応答は以上とさせていただきます。

ありがとうございました。

○事務局

ART / TANEMAKi さん、お疲れ様でした。

これですべての団体さんの公開プレゼンテーションは終了になります。

この後、また審議の都合上、休憩を取らせていただきます。3時10分からは交流タイムということで、各団体のへの御質問、団体間での御質問等々させていただきたいと思います。あちらの時計で3時10分に、再開したいと思います。

では休憩に入ります。

- 休憩 -

○事務局

大変お待たせいたしました。これより再開をさせていただきたいと思います。

ここからの時間は、団体交流タイムということで市民活動のさらなる発展や、げんき基金の補助事業の向上などを目的に、委員の皆様及び団体の方、傍聴の方も含めまして、日頃の活動の中で感じられることや、げんき基金に関して忌憚のない御意見を述べていただき、会場内で意見交換ができればなというふうに思っております。

また、Zoomで参加されている方も、Q&A機能を使っていただくことで、職員が代読して、こちらの場で御質問をしていただくこともできます。質問が多い場合などは、時間の都合上すべて御質問を御紹介できないこともあると思いますが、御承知いただければと思います。なお、委員の皆様に関しましては、こちら手元のマイク赤いボタンをオンにさせていただいて、赤くなってから御発言ください。団体の方、傍聴の方に関しましては、職員がマイクを回しますので、そちらの方で御発言をお願いします。

では、ここからは山田委員長お願いいたします。

○山田委員長

皆さん、発表ありがとうございます。

非常に充実した楽しい発表を聞かせていただきました。すごくワクワクしたのと同時に、審査においては、かえって緊張して参りました。ここから先は団体交流タイムです。団体の皆さん同士の意見交換ですとか、仲間を増やしたいので仲間になってくださいといったことを、私たちが仲人代わりに見守りながら、皆さんにお話しいただく時間です。もちろん委員や事務局に対しての御質問などもあれば伺います。まずは、団体間で様々な交流をしていただければと思います。また、プレゼンテーションで言い切れなかったこととか、もっとこういうことも伝えたかったんだけど、時間の関係で話せなかったことなどもお話してください。こうした情報交換を通じて、団体の交流につながっていけば良いと思います。

それでは、発表して下さった団体の皆さんから、伝えておきたいこと、言いきれなかったもので追加で話したいことがありましたら、遠慮なくご発言ください。いかがでしょうか。委員にも他の団体の皆さんにも知ってもらいたいというお話でも結構です。ぜひお聞かせください。

それから、付き添いで来たので言いたいことが言えなかったという人も、もちろん話して下さって結構です。いかがでしょうか。何か、御発言いただけることありますでしょうか。口火を切っていただくのはなかなか難しいと思いますが、どうでしょうか。

では、お考えいただいている間に、少し他市の事例を紹介します。市民活動を支えるプロジェクト、たとえば、自治体がお金を出す仕組みは、今いろいろな町で行われています。もちろん、近隣にもありますし、他県にもあります。そういうところで調査をさせていただいて話を聞くと、茅ヶ崎にはある特徴が顕著なんですね。それは、団体のアイデアがとても豊富でバリエーションがあることです。自治体によっては、ある問題点に特化して、特定の問題にいろいろな団体が申請するといった方法もあります。

今日も皆さんいろいろ聞いていただいて、おわかりになった通り、茅ヶ崎はそれに比べると、提案のバリエーションがとても豊富です。これは皆さんも、それから委員も日頃感じていることですが、茅ヶ崎市民の皆さんは様々なことを考え、様々なことを感じながら、これ足りないよね、この町にこういうことがあったらもっといいよねといったことをたくさん話し、その一部を今日表現して下さったのではないかと思います。それから、もう1つの面白い特徴が、団体間の交流です。こういうプレゼンテーション形式の取り組みは結構ありますが、団体が交流するチャンスを作っているところはあまり多くないようです。プレゼンをして、委員がそれを聞いて、質疑応答をしてそのまま評価に入ってしまう、というところが多いようです。この場面で、団体同士が手をつなぐチャンスがある、そういう機会を作っているのが非常に珍しいようです。この点、茅ヶ崎はよく褒められるというか、いいですねと羨ましがられることがあります。この機会は私どももとても大切にしている時間です。どうぞ皆さんの方から何か話しておきたいとか、伝えておきたいことがありましたら、マイクをお届けしますので、お話いただければと思います。

(団体交流タイム)

○山田委員長

こうしたご縁で、団体の横の繋がりを大切にさせていただきたいと思います。ここから、それぞれの活動の工夫につなげたり、それから良いことを皆で高めたり、或いは、課題を解消したり、そのような茅ヶ崎になっているといいなと今回も思わせていただきました。

御協力どうもありがとうございました。では、この時間はこれで終了とさせていただきます。

○事務局

皆さんありがとうございました。

これで、本日の予定はすべて終了になります。

最後になりますが、山田委員長、閉会の御挨拶の方、よろしくお願いたします。

○山田委員長

皆さん、どうもありがとうございました。プレゼンテーションは本当に楽しくというか、興味深く聞かせていただき、勉強になったところも多かったです。時間がないので、短く挨拶をさせていただきます。

今日、有意義で面白かったことは、皆さんのプレゼンテーションと団体交流タイムです。社会と市民はいつ、どこで、どのように、定義できるかが、全体を通して共通に議論されていた、そういう実感を強く抱きました。皆さんよく御存じのように、四次元は縦・横・高さに時間軸を加えたものです。また、社会とは一般的に、地理軸と時間軸で構成されていると言われます。つまり、四次元の発想なんですね。三次元の空間的な広がりに加えて、時間の流れも想定する中で、活動のポイントが決まっていきます。その時に、地理的な広がりだけで社会を見ることもできますが、皆さんはそれを時間的な広がりも含めて考えていました。これがとても重要なポイントでした。だから、特定の対象を決めても、その人や物は三次元の空間の中にいるだけではなく、時間の流れとともにあるという活動の設定になったのだと思います。つまり、現在 12 歳の小学生は、50 数年後は高齢者です。それから、現在病気で苦しんでいる人は、やがて、情報提供者に、活動の先生になることも考えられる。そのような考え方が印象的でした。たとえば、ポッチャの皆さんも御紹介くださったように、最初は興味で入った人がやがてポッチャを伝える先生になる。アートの話題も同様です。そのような人間の時間、時間経過とともに起こる変化は、三次元の枠組に重ねる形で共通に語られていました。そういった市民や社会の想定の中で、皆さんの御提案がなされたところに、ものすごく面白さを感じました。その社会の考え方と、その市民性の展開から、市民の市民性をどう育てるか、市民とどう向き合い、どう付き合っていくのか、これらを市民活動は考え続けなければならない、こうしたメッセージが発信されていたように思います。おそらくこれが、みなさんの発想の根底にある、今日の共通のテーマだったと思います。

最後になりましたが、このような皆さんのメッセージを心に留めながら、この後、私たちは評価会議に臨みます。これから、この後に評価会議があります。あと 2 時間ぐらい、会議は続きます。その中で、皆さんの思いをもとに、しっかり評価をさせていただきます。

すみません、結局長くなってしまいました。このプレゼンテーションの機会、とても楽しく参加をさせていただきました。皆さんのおかげだと思っております。

どうもありがとうございました。

○事務局

ありがとうございました。最後に事務連絡でございます。

本日プレゼンいただきました 4 団体の方に関しましては、この後採択・不採択を決定して、3 月中に皆様のお手元に届くように事務手続きをさせていただきますので、結果はそちらを御覧ください。

委員の皆様に関しましては、4 時 10 分ごろから評価会議を開始させていただきたいと思いますので、4 階の会議室 1 にお集まりください。

それでは、以上をもちまして、令和 8 年度実施市民活動推進補助事業公開プレゼンテーショ

ンを終了いたします。皆様お疲れ様でした。